

Title	盛岡市某盲啞學校生徒ノ胸部「レ」集團検査成績
Author(s)	足澤, 三之介; 斧田, 二郎
Citation	日本医学放射線学会雑誌. 1942, 3(3), p. 253-265
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/15027
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

盛岡市某盲啞學校生徒ノ胸部 「レ」集團検査成績

岩手醫學專門學校放射線科

足澤三之介
斧田二郎

Ergebnisse von Röntgenreihenuntersuchungen auf Tuberkulose von Schülern und Schülerinnen einer gewissen Blinden- und Taubstummenanstalt in der Stadt Morioka.

Von

S. Tarusawa und J. Onoda.

Aus der radiologischen Abteilung der Iwate Medizinischen Fachschule zu Morioka.

目次

緒言

A. 「ツベルクリン」反應陽性者ノ検査成績

1. 赤沈速度
2. 「レ」像ノ分類
3. 活動性竝ニ疑活動性群ノ「レ」像
4. 赤沈速度ト「レ」像トノ關係

B. 「ツベルクリン」反應陽轉者ノ検査成績

1. 「ツ」反應
2. 「レ」像ソノ他
3. 「ツ」反應陽轉ノ程度ト「レ」像トノ關係
4. 「ツ」反應ト赤沈速度トノ關係

5. 赤沈速度ト「レ」像トノ關係

C. 「ツベルクリン」反應陰性者ノ検査成績竝ニソレト「ツ」反應陽性者及陽轉者ノソレトノ比較

1. 「ツ」反應陰性者ノ赤沈速度「レ」像竝ニ兩者間ノ關係
 2. 「ツ」反應陰性者、陽性者及陽轉者ノ赤沈速度ノ比較
 3. 「ツ」反應陰性者、陽性者及陽轉者ノ「レ」像ノ比較
- 總括及要約

緒言

見ントシテ見得ズ、語ラントシテ語り得ズ、聽カントシテ聽クヲ得ザル之等ノ人達ハ尋常ノ人間トハ自ラ異ツタ生活態度ヲ示シテキルニ違ナイ。盲ノ人ハ眼開キト行ヲ共ニシ勝チデアリ。啞ノ人ハ語ラントシテ語り得ズ自ラ強キ音聲ヲ發セントスル。之等ノ人達ノ集團ヲ觀テキルト三三、五五集團踳踳シテ手眞似足眞似相語タツテキル。疾病ニ對スル認識ガ不足デアリ、發病

シテモ症状ヲ訴ヘナイ傾キガ多分ニアル。症状ヲ問イテモ答ヘナイ場合ガ多イ。之等ノ事實ハ止ムヲ得ザル事情ノコトモアラウガ。防止シヤウト思ヘバ幾ラデモ避ケ得ラレルコトデ。平常ノ監督指導ガ肝要デアアル。尋常ノ人間ノ場合デモ無自覺性結核患者ニ就イテ詳シク問診ヲヤツテ見ルト何かシラ自覺症状ガアル場合ガ多イノデアアル。況ヤ之等ノ人達ニハ無自覺性トイツテモ。立入ツテ叮嚀ニ問診ヲ行ヘバ。必ズヤ何等カノ症状ガアルニ違ナイノデアアル。從ツテ殊ニコノ種ノ人達ニ於テ無自覺性肺結核ナル診斷ヲツケル場合餘程慎重ナ態度ガ肝要デアアルト思フ。

此ノ學校ノ生徒ハ寄宿舎ニ於テハ5人乃至10人1室ニ起居ヲ共ニシテキル。之等ノ生徒ノ間ニ1人ノ開放性結核患者ガ發生シタトスレバ同室者ニ於テハ勿論。ソノ他ニ於テモ普通ノ學校生徒ト異リ。感染シ易ク且ツ濃厚感染ヲ示スモノデアアルト思ハレル。此ノ學校ノ1寄宿舎生徒ガ昨昭和16年5月初旬粟粒結核ニテ死亡シタノデアツタ。直ニ全校生徒ニツイテ集團検査ヲ實施スルコトニナツタ。ソノ結果寄宿舎生ニ爆發的結核發生ヲ發見シタノデアアル。本報告ニ於テハ特ニ「ツ」反應陽轉時ノ「レ」像。赤沈速度竝ビニ「ツ」反應陽轉ノ程度ト「レ」像トノ關係ヲ述ベ。又「ツ」反應陽性者。陰性者ニ就イテノ同様な検査成績竝ビニソレヲ相互關係ヲ述ベ。最後ニ「ツ」反應陰性者。陽性者及ビ陽轉者ニ就イテソノ検査成績ヲ比較シテ見タイト思フ。

(A) 「ツ」反應陽性者ノ検査成績

昨昭和16年5月中旬本校耳鼻咽喉科教室ニ於テ。此ノ盲啞學校生徒ノ身體検査ヲ行ツタ結果。總數144名中「ツ」反應陽性者40名。陰性者104名デアツタ。「ツ」反應ハ1000倍舊「ツベルクリン」0.1ccヲ皮内注射24時間日ノ發赤ヲ検査シ。10mm以上ヲ陽性トシ。之以下ヲ陰性トシタ。而シテコノ陽性者40名ノ細密検査ヲ自分等ノ所ニ依頼シテ來タ。先ヅ赤沈速度ト「レ」間接撮影ヲ行ツテ見タノデアアルガ。赤沈速度ノ亢進者ノ多イヲ見テ先ヅ驚イタ。之ナラバ「レ」像ニモ相當病變者ガ出テ來ルノデアアルマイカト考ヘテ。「レ」寫眞ノ出來上ルノヲ心待チニ待ツテ居タノデアアル。出來上ツテ見ルト果シテ「レ」像ニモ結核性病變者ガ多數現レ。活動性浸潤性「レ」病變者ヤラ。大空洞ヲ有スル結核患者ヤラ。將又空洞ヲ缺クトハイヘ滲出性肺結核ノ像ヲ示ス患者ソノ他ヲ發見シ。而モ之等ノ者ハ前述ノ如ク左程著明ナル自覺症状モ訴ヘズニ平常ノ生活ヲ營ンデキルノヲ見テ寒心ニ堪エザル思ヒデアツタ。之等ノ人達ニ對シテハ叮嚀ニユツクリト而モソノ道ノ人ヲ仲介ニ置イテ問診ヲ進メテ行カネバナラヌコトヲ痛感シタノデアツタ。

1. 赤沈速度

「ツ」反應陽性者40名ノ赤沈速度(ウェスターグレン氏法1時間値)ハ第1表ニ示スガ如クデアリ。赤沈正常者ハ全數ノ半數ニモ足りナカツタ(47.5%)。

ソシテ半數以上(21名52.5%)ガ亢進ヲ示シテキタノデアアル。ソノ内強度亢進ハ8名(20%)ノ多キニ達シ。3名ノ如キハ61mm以上ヲ示シテキルノデアツタ。之ニヨツテ「レ」像ニモ相當

數 活動性病變者ガ現レ
ルデアラウトイフ豫想
ヲ抱イタノデアルガ果
シテ第2表ニ示スガ如
クコノ豫想ガ裏書サレ
タ。

第1表 「ツ」反應陽性者ノ赤沈速度

	正 常 1—15mm	輕度亢進 16—30mm	中等度亢進 31—40mm	強度亢進 41mm以上	計
員 員	19	9	4	8	40
%	47.5%	22.5%	10%	20%	100%
		21例 52.5%			

2. 「レントゲン」像

諸家ノ報告ヲ參考トシ、便宜上自分等ハ「レ」像ヲ次ノ如ク分類シタ。

健康肺群： 余等ノ判讀ヲ以テシテハ曾ツテ結核ニ罹リタル確證ヲ見出サザルモノデ、勿論
コノ中ニハ一度肺結核ニ罹リ、ソノ痕跡ヲ「レ」寫眞上ニ確認シ得ザルモノモ含ンデキル。又曾
ツテ肺結核ニ罹リタル些少ノ痕跡ヲ認ムルモノ等デアル。即チ本群ニ屬スルモノヲ舉グレバ正
常肺「レ」像、肺門陰影稍々大、1.2ノ石灰化竈、少許ノ纖維性變化、少許ノ索狀形成等ノ「レ」
像ヲ認ムルモノデ十二分ノ勞務ニ堪エ得ル者デアル。

亞要注意群(結核經過群)： 曾ツテ結核ニ罹リタル確證或ハ疑アルモ、之ヨリ再燃ノ悞レ先ヅ
ナシト思ハレルモノデアルガ、甚ダシキ過勞又ハ極端ナル窮乏等ニ遇ハバ再燃スルコトナシト
シナイモノデアル。之ヲ具體的ニ示セバ肺門硬變、肺野ニ散在セル石灰化竈、石灰化肺門腺、
肺野索狀立ビニ網狀陰影ノ増加、肋膜肥厚、葉間肋膜肥厚、肺尖肋膜肥厚、石灰化初期變化群
等ノ變化ヲ有スルモノデアル。

要注意群： 肺紋理ノ増強、肋膜ノ肥厚癒著、肺門陰影ノ増大又ハ亂レ等ガ強く、前者ニ比
シ再燃ノ悞レ大ナルモノ、或ハ肺野ニ明ニ結核性ノ病竈陰影即チ硬化性病竈陰影、又ハ大ナル
肋膜肥厚、癒著、大ナル肋膜石灰化陰影等ヲ認ムルモノデ、醫師ノ監督注意ノ下ニ現在ノ職業、
生活ヲ續ケシメ得ルモノ、或ハ特ニ攝生、養生等ヲ必要ト認ムルモノデアル。

疑活動性結核群： 次ノ活動性結核群ニ比シ、質的竝ビニ量的ニ見テ、ソノ變化輕度ニシテ、
「レ」寫眞上ノミデハ直ニ活動性ト斷定出來兼ネルモノデ、他ノ検査事項ノ助ニヨリ確定ヲ要ス
ルモノデアル。靜養或ハ事情許セバ治療ヲ施ス必要アリト思ハレルモノデアル。

活動性結核群： 即刻治療或ハ靜養ヲ施ス必要アリト思ハル、程ノモノデアリ、之ヲ具體的
ニ示セバ浸潤病竈、活動性肺門浸潤、肺門腺腫大、増殖硬化性肺結核、増殖性肺結核、混合型肺
結核、滲出性肺結核、粟粒結核及ビ血行撒布性肺結核、滲出性肋膜炎等ヲ認メタモノデアル。

「ツ」反應陽性者40名ノ「レ」像ヲ上記ノ分類ニ當テ嵌メルト第2表ニ示ス様ヲ割合ニナツタ。

即チ活動性ト疑活動性ヲ一括シテ活動性トスルナラバ27.5%ニ達シ、眞ノ活動性病變者ノ
ミニテモ17.5%ノ多キニ達シテキル。ソシテ治療或ハ靜養ヲ要スル活動性、疑活動性結核群
ト何等カノ注意或ハ保護ヲ必要トスル非活動性群(要注意群及ビ亞要注意群)トチ加算スレバ全
員ノ丁度半数ニモ及ンデキルノデアル。

第2表 「ツ」反應陽性者ノ「レ」像ノ割合

	活動性	疑活動性	要注意	亞要注意	健康肺	計
人員	7	4	5	4	20	40
%	17.5%	10%	12.5%	10%	50%	100%

11	9
27.5%	22.5%
16	
40%	
20	
50%	

3. 活動性並ビニ疑活動性群ノ「レ」像

活動性並ビニ疑活動性群ノ「レ」像並ビニ検査成績ヲ一括表示スレバ第3表ノ如クデアル。

第3表 活動性並ビニ疑活動性群ノ「レ」像

姓名	性	年齢	赤沈値	「レントゲン」診断	「レ」線像分類	自覚症状	理學的所見	喀痰鏡檢結核菌
扇ナ	♀	17	66mm	左側肺門浸潤	活動性	(-)	(+)	(+)
鈴ヤ	♀	16	64mm	右側肺門浸潤	活動性	(-)	(+)	(-)
田ミ	♀	16	101mm	左側肺門浸潤	活動性	(-)	(-)	(-)
藤サ	♀	16	11mm	早期浸潤	活動性	(-)	(-)	(-)
村イ	♀	15	28mm	左側肺門浸潤	疑活動性	(-)	(-)	(-)
佐カ	♀	16	44mm	右側初期變化群	活動性	(-)	(-)	(-)
勝ヨ	♀	19	41mm	左側主滲出性晩期型肺結核	活動性	(-)	(+)	(+)
藤定	♂	20	19mm	右側肺門周圍竝ニ左側肺門浸潤	疑活動性	(-)	(-)	(-)
小清	♂	12	31mm	左側主滲出性晩期型肺結核	活動性	(-)	(+)	(+)
伊富	♂	11	16mm	左側肺門腺結核	疑活動性	(-)	(-)	(-)
古美	♀	11	42mm	左側肺門腺結核	疑活動性	(-)	(+)	(-)

扇ナ○、鈴○ヤ○、田○ミ○、藤○サ○、佐○カ○、勝○ヨ○等ノ6名ハ寄宿舎(第1號室)ニ於テ同室ニ起居ヲ共ニシテキタ。此ノ室ニハ8名居リ、残り2名ハ幸ニモ活動性病變ヲ示スニハ至ラナカッタノデアルガ1名ハ「ツ」反應陽性デ右側肺門硬變トイフ「レ」像ヲ示シテキタ。他ノ1名ハ「ツ」反應陰性デ「レ」像ニハ病の所見ヲ認メナカッタノデアル。即チコノ室ニ居ッタ8名中7名迄ガ「レ」像ニ結核性病變ヲ認メ、6名ハ前述ノ如ク或ル者ハ大空洞ヲ作り、或ル者ハ滲出性肺結核ノ「レ」像ヲ示シ、又或ル者ハ赤沈速度101mmヲ呈シ、第3表ニ示スガ如ク、輕重種々ノ活動性「レ」像ヲ示シテキタノデアル。残りノ唯1名ノミハ此ノ恐ルベキ結核病舎トモイフベキ室ニ7名ノ結核患者ト共ニ生活シ、而モ末感染トイフ二重ノ危険状態ニ曝サレテ居タノデアル。

小○清、伊○富○ノ室(第2號室)ニハコノ外ニ6名ノ同室者アリ、内2名ハ昨年5月ヨリ7月迄ノ間ニ「ツ」反應陽轉シ、而モコノ期間中ニ活動性病變ヲ作ルニ至ツテキルヲ見ルト、コノ様ニシテ次々ト同室感染ガ進ンデ行ツタモノト考ヘラレル。幸ヒ残りノ4名ハ健康体内3名ハ「ツ」反應陽性、1名ハ陰性デアッタ。結核菌ノ鏡檢ニヨリ第1號室ヨリ2名、第2號室ヨリ

1名ノ陽性者が發見サレタノデ、1號室モ2號室ト同様「ツ」反應陰性→陽轉→病竈形成或ハ再感染→病竈形成トイフ経路ヲ辿リ、遂ニ1人ヲ殘シ、全室員ガ侵サル、結果トナツタモノデアラウ。

古○美○ハ第3號室ニテ同室ニ3名生活シテキタガ他ノ2名ハ「ツ」反應陰性健康者デアッタ。

村○イ○第4號室ニ5名同室生活ヲシテキタガ残りノ4名ハ總テ健康者デアッタ。

第3及ビ第4號室ノ病變者ニハ喀痰鏡檢ノ結果結核菌ヲ證明シナカツタ。同室者ハ「ツ」反應陰性デアッタ。感染ヲ免レテ居ツタノデアラウ。

藤○定○ハ疑活動性デ通學生デアル。

活動性竝ビニ疑活動性結核群ノ同室者ノ健康状態ヲ調べテ見ルト以上ノ如クデアルガ自覺症狀等モモット詳シク何等カノ方法デ調べタナラバ訴ガアルト思フノデアルガ既述ノ如ク此ノ種ノ人達ハ仲々病狀ヲ訴ヘナイノガ常ナノデアル。發見セル結核患者ハ總テ無自覺性デアッタ。検査ノ結果寒心ニ堪エザルモノアリ、開放性ノ者ハ隔離シ、治療或ハ靜養ヲ要スル者ハ各々適當ナル處置ヲ講ジ、學校内ヲ健全ナルモノニ化スルニ努メタ。

4. 赤沈速度ト「レ」像トノ關係

活動性者7名中1名ハ正常値ヲ示シテキタガ残りノ總テハ強度亢進ヲ示シテキタ。疑活動性者ハ強度亢進1名、輕度亢進3名ニテ程度ノ差コソアレ何レモ亢進シテキタ。

第4表 赤沈速度ト「レ」像トノ關係

赤沈速度 「レ」像	正 常 1—15mm	輕度亢進 16—30mm	中等度亢進 31—40mm	強度亢進 41mm以上	亢進計	總計
活 動 性	1		1	5	6	7
疑 活 動 性		3		1	4	4
要 注 意	1	1	2	1	4	5
亞 要 注 意	1	2		1	3	4
健 康	16	3	1		4	20

非活動性者(要注意及ビ亞要注意)ノ赤沈速度ハ正常ヨリ強度亢進迄存在シテキタ。之ハムシロ當然ノコトデアル。何故ナラバ此ノ場合非活動性ノ名稱ハ胸部「レ」像ニ附シタモノデアルカラ胸部ニ變化ガ無クテモ他ノ部位ニ組織破壊機轉ガアレバ當然赤沈速度ガ亢進シテモ差支ナク、又胸部「レ」像ニ於テモ「レ」像ニ現レヌ所ニ活動性病竈ガアレバ、此ノ場合活動性ノ診斷ガツカナクテモ事實ハ活動性ナルタメ、「レ」像ニ關スル限り非活動性デアツテモ赤沈速度ハ亢進シテ然ルベキデアル。從ツテ非活動性者ノ赤沈速度ハ正常カラ強度亢進迄存在シテモ之ハ異トスルニ足ラヌコト、思フ。

何レニセヨ活動性、疑活動性者ニハ赤沈亢進セルモノ多ク殊ニ活動性者ニ強度亢進者多ク見ラレ「レ」像ト赤沈速度トノ間ニハ平行關係ガ認メラレタ。

赤沈速度ガ亢進セル場合ハ「レ」像ニ病變ガ發見サレナクテモ何處カニ病竈ノ存在ヲ豫想スルコトガ出來ルノデアアルシ。又之等ノ者ニ對シテハ適當ナル保護或ハ處置ヲ講ジナケレバナラヌノデアアルカラ。此ノ意味ニ於テ赤沈速度ノ検査ハ必要缺クベカラザルモノト思ハレル。然シ赤沈速度正常者ノ内ニモ結核性病竈ヲ有スル者相當數ニ上ルコトヨリスレバ患者發見トイフ見地ヨリスレバ赤沈速度ノ検査ハ、ソノ手數努力ニ比シテソノ價値少キモノト一言ヒ得ルノデアアルガ要ハソノ運用如何、検査ノ對照如何トイフコトニ歸スルモノト思ハレル。

(B) 「ツ」反應陽轉者ノ検査成績

1. 「ツ」反應

以上ノ様ニ多數ノ結核患者ヲ發見シタノデ、當時「ツ」反應陰性ナリシ者モケ2ヶ月後ニ於テハ或ハ陽性ニ轉化シ、或ハ之等陰性者ニ新病竈ヲ生ジ、「ツ」反應ガ陽性ニ轉化セル者モ存在スルモノナラントノ豫想ノ下ニ、赤沈速度、「ツ」反應及ビ「レ」線再検査ヲ行ツテ見タ。果シテ第5表ニ示スガ如ク「ツ」反應陽轉セル者94名中14名(14.9%)ヲ發見シ、内8名ハ最強陽性デアツタ。

第5表 「ツ」反應陰性者ノ再検査成績

	陰 性	陽 性				總 計
		(+) 10—14mm	(++) 15—20mm	(+++) 21—30mm	(++++) 30mm以上	
被檢人員	80(85.1%)	3	1	2	8	14(14.9%)
						94(100%)

2. 「レ」像ソノ他

「ツ」反應陽轉者ノ「レ」像ソノ他ノ検査成績ヲ一括表示スレバ第6表ノ如クデアアル。「ツ」反應陽轉者中「レ」像ニ病變ヲ呈セル者ニ就イテ見ルト肺門浸潤、肺門→肺野浸潤或ハ肺門浸潤→肋膜炎ノ形ノ内ノ何レカニ屬シテキル。之ハ肺結核ノ發病、肺結核ノ初期「レ」像乃至ハソノ進展ノ状態ヲ追及スル上ニ於テ價値アルモノト思ハレル。又後述スル所デハアルガ病的「レ」像、殊ニ活動性病變ハ總テ「ツ」反應最強陽轉者ニ限ツテ現レ、「ツ」反應比較的弱度陽轉者ニハ病的「レ」像ヲ認メナカツタコトハ「ツ」反應陽轉時ノ「ツ」反應ノ強度ト肺結核發病トノ間ニ密接ナル關係アルヲ示スモノト思ハレル。本表ニ明ナ様ニ「ツ」反應陽轉時ノ「レ」病變ハ殆ド總テ肺門浸潤ノ類デアアリ、之ハ注目ニ價スルモノデアラウ。又相當ノ「レ」病變ガアリナガラ自覺症狀ガ缺除シテキルコトデ、之等特殊ノ人間ニ對スル問診トシテハ或ハ不充分デアツタカモ知レナイガ兎ニ角一般ニ「ツ」反應陽轉時ニ際シ自覺症狀ヲ訴ヘナカツタリ輕微デアツタリスルコトハ注意スベキ事柄デアリ、「ツ」反應陽轉時ニ「レ」撮影ノ必要ナル所以デアアル。

3. 「ツ」反應陽轉ノ程度ト「レ」像トノ關係

「ツ」反應陽轉ノ程度ト「レ」像トノ關係ヲ調べテ見ルト第7表ニ示スガ如ク、最強陽性者8名中活動性4名、擬活動性ハ1名デアリ、残り3名中2名ハ要注意、1名ハ亞要注意者デアツタ。

第6表 「ツ」陽轉者ノ検査成績一覽

姓名	性	年齢	赤沈値	「ツ」反應	「レントゲン」診断	「レ」像分類	自覺症狀	理學的所見	喀痰鏡檢結核菌
山. 萬	♂	13	8	(冊)	右側肺門浸潤	活動性	(-)	右前胸部呼吸音粗	(-)
及. 間	♂	11	90	(冊)	左側肺門浸潤	活動性	(-)	左側背下部粗	(-)
小. 常	♂	19	58	(冊)	兩側肺門浸潤	活動性	(-)	(-)	(-)
遠. 仁	♂	13	49	(冊)	右側肺門浸潤	活動性	(-)	(-)	(-)
今. ミ	♀	16	17	(冊)	右側肺門一同側鎖骨下浸潤	疑活動性	(-)	(-)	(-)
坂. 忠	♂	16	12	(冊)	兩側肺門硬變	要注意	(-)	(-)	(-)
植. 正	♂	18	4	(冊)	兩側肺門浸潤	要注意	(-)	(-)	(-)
佐. 信	♂	19	7	(冊)	兩側肺門硬變	亞要注意	(-)	(-)	(-)
柳. 由	♂	16	13	(+)	右側肺門硬變	亞要注意	(-)	(-)	(-)
高. 貞	♂	12	6	(+)	右側肺尖肋膜炎	亞要注意	(-)	右側前後胸部呼吸音粗	(-)
佐. ミ	♀	12	15	(+)	正 常	健康肺	(-)	(-)	(-)
大. 秋	♂	13	14	(+)	正 常	健康肺	(-)	(-)	(-)
大. ハ	♀	20	8	(+)	正 常	健康肺	(-)	(-)	(-)
中. キ	♀	12	4	(+)	正 常	健康肺	(-)	(-)	(-)

第7表 「ツ」反應陽轉ノ程度ト「レ」像トノ關係

「レ」像	「ツ」反應				計	總 計
	(+) 10—14mm	(+) 15—20mm	(+) 21—30mm	(冊) 30mm以上		
活動性	0	0	0	4	4	14
疑活動性	0	0	0	1	1	
要注意	0	0	0	2	2	
亞要注意	1	1	0	1	3	
健康肺	2	0	2	0	4	

而シテ活動性、疑活動性及ビ要注意群ハ「ツ」反應最強陽轉者ニノミ發見サレ、之以外ノ比較的弱度陽轉者(最強陽轉者ヲ除ク陽轉者)ニハ見出サレナカツタ。即チ本検査ニ於テハ活動性並ニ之ニ類スル者ハ「ツ」反應ガ陽轉スル場合ハ最強陽轉ヲ示ス結果トナツタ。然シコノ逆ハ必ズシモ成立タズ。「ツ」反應ガ最強陽轉ヲ示スカラ必ズシモ活動性並ニ之ニ類スル者ヲ見ルトハ限ラナイ。非活動性、亞要注意者ニモ僅少デハアルガ最強陽性者ガアツタ。

此ノ「ツ」反應最強陽轉者ハ結核菌ノ濃厚感染ヲ受ケ或ハ左程濃厚感染ニアラズトモ個體ノ結核菌ニ對スル感受性强ク或ハ又「アレルギー」性過敏狀態ノ時期ニ於テ頻回感染ヲウケ、ソレヲノ結果「ツ」反應ガ強度ニ陽轉スルト同時ニ肺臟内ニ活動性新結核病竈ヲ作ルニ相違ナイ。活動性及疑活動性「レ」像ヲ示セル「ツ」反應最強陽轉5名中活動性病度者2名ハ寄宿舎第2號室ニ於テ開放性活動性結核患者ト起居ヲ共ニシ、疑活動性病變者1名ハ粟粒結核ニテ死亡セル者ト同室デアツタノデ之等ノ者ハ同室濃厚感染ニヨルモノデアツタデアラウ。残りノ活動性病變者2名ハ同室者ニハ結核患者ハ無カツタケレドモ、コノ様ニ多數ノ結核患者ガ周圍ニ居ルノデアル

シ、又同シ寄宿舎内ノコトデアルカラ上記結核患者ノ室ニモ屢々出入スルコトガ想像出來ルノデ。此ノ2名ノ者モ上記ト同様ノ感染経路ニヨツテ新病竈ヲ作ルニ至ツタモノデアラウ。又此ノ種學校デハ生徒ノ生活態度ヨリ觀テ、學校内ニテ生活中感染ヲウケタトモ見ル事ガ出來ルデアラウ。次ニ「ツ」反應最强陽轉ヲ示セル2名ノ要注意、1名ノ亞要注意者ニ就イテ「レ」像ガ、之ハ陽轉時ノ感染程度、個體ノ結核菌ニ對スル感受性ノ度合、感染ノ度数及個體ノ健康狀態等ニモヨルコトデアリ、「ツ」反應最强陽轉必ズシモ活動性病變ヲ呈スルトハ限ラナイ。

「ツ」反應最强陽轉者以外ノ陽轉者即チ前述ノ比較的弱度陽轉者ハ同室者ニ結核患者ハ無ク、寄宿舎モ別棟ニナツテキタノデ、體質ソノ他種々ノ理由モアラウガ弱感染デ以テ病竈ノ發現ヲ免レタモノデアラウ。

4. 「ツ」反應ト赤沈速度トノ關係

「ツ」反應陽轉者ヲ調べテ見ルト最强陽轉者8名中4名ハ赤沈速度亢進ヲ示シ、而モ内3名ノ如キハ強度亢進ヲ示シテ居ツタノデアルガコノ最强陽轉者以外ノ陽轉者ハ(比較的弱度陽轉者)赤沈速度ハ正常デアツタ。「ツ」反應最强陽轉者ハ何故ニ赤沈速度亢進ヲ來シタカ。「ツ」反應最强陽轉者8名中4名ハ赤沈亢進シ、ソシテ「レ」像デハ活動性或ハ疑活動性病變ヲ示シテキタノデアルガ3名ハ赤沈正常デ、「レ」像モ非活動性デアツタノデアル。之カラ觀ルト「ツ」反應ガ最強度ニ陽轉シタカラテ活動性病竈ガナケレバ赤沈速度ハ必ズシモ亢進スルモノデハナク、

第8表 「ツ」反應陽轉ノ程度ト赤沈トノ關係

赤沈速度 「ツ」反應	正 常 1—15mm	輕度亢進 16—30mm	中等度亢進 31—40mm	強度亢進 41mm以上	計	總 計
(+)	3 ^{1(亞)} _{2(健)}				3	14
(++)	1 (亞)				1	
(+++)	2 (健)				2	
(++++)	4 ^{3(非活)} _{1(活)}	1 (疑活)		3 (活)	8	

「ツ」反應ガ強度ニ陽轉シ、活動性病竈ガ存在シテ始メテ赤沈速度ガ亢進スルモノト思ハレル。「ツ」反應最强陽轉者中1名ノ活動性「レ」病變者ハ赤沈速度正常値ヲ示シテキタノデアルガ、之ハ「レ」像ニ關スル限り活動性デハアルガ、事實ハソノ病竈ハ靜止ノ狀態ニアツタニ違ナイ、ソレデ赤沈ハ正常デアツタノデアラウ。「ツ」反應最强陽轉者以外ノ陽轉者ノ赤沈速度ガ正常ノ範圍ヲ越エナカツタノハ「レ」像ガ非活動性或ハ正常デアツタタメデアラウ。即チ「ツ」反應陽轉ノ程度ソレ自身ト赤沈速度トノ間ニハ直接ノ關係ハナイモノト言ヒ得ル。

5. 赤沈速度ト「レ」像トノ關係

「ツ」反應陽轉者ニ就イテ調べテ見ルト要注意者以下ニ於テハ赤沈亢進者ハナイ。活動性及疑活動性者ニ於テハ5名中1名ハ正常デアツタガ、残り4名ハスベテ亢進ヲ示シ、3名ノ如キハ強度亢進ヲ示シテキル。即チ赤沈速度ノ亢進ト病的「レ」像トハ略々平行スルコトガ認メラレ

ル。赤沈速度ハ患者發見トイフ見地ヨリスレバ多數ノ検査人員ニ一々之ヲ檢スルコトハソノ勞力ニ比シテ價値ノ少イモノデアルトイフコトハ尤ナコトデアルガ。「レ」所見ニハ異常ナクモ赤沈速度ノ亢進ニヨツテ、「レ」像ニ現レザル場所ニ活動性病竈ガ存在スルツカ、或ハ他ノ身體部位ニ疾患アリマナシヤノ判決ガ下サル、關係上検査ノ對照如何ニヨリ出來得ルナラバ共ニ實施シ度キモノト考ヘラル。要ハ應用ノ適否ノ問題デアル。(第9表)

第9表 赤沈速度ト「レ」像トノ關係

赤沈速度 「レ」像	正 常 1—15mm	輕度亢進 16—30mm	中等度亢進 31—40mm	強度亢進 41mm以上	計	總 計
活 動 性	1			3	4	14
疑 活 動 性		1			1	
要 注 意	2				2	
亞 要 注 意	3				3	
健 康 肺 群	4				4	

(C) 「ツ」反應陰性者ノ検査成績竝ニソレト陽性者、陽轉者ノソレトノ比較

1. 「ツ」反應陰性者ノ赤沈速度、「レ」像竝ニ兩者間ノ關係

「ツ」反應陰性者ノ赤沈速度ハ正常値ガ76%(80名中61名)、亢進者ガ24%(19名)デアリ、ソノ内4%(3名)ハ強度亢進デアツタ。「レ」像ニハ活動性、疑活動性ハ認メラレズ、要注意ハ80名中30名(37.5%)、亞要注意ハ12名(15%)、健康肺群ハ38名(47.5%)デアツタ。之ト「ツ」反應陽性者竝ニ陽轉者ノソレトノ比較ハ後述スル。

赤沈速度ト「レ」像トノ關係ヲ見ルト「ツ」反應陰性者ニハ活動性竝ニ疑活動性「レ」像ハ見當ラズ、從ツテ要注意以下ノ者ニ就イテ見ルト要注意群ニハ赤沈亢進最モ多ク(33.3%)、亞要注意群(25%)、健康肺群(15.7%)ノ順デアル。即チ「ツ」反應陰性者ニ於テモ「レ」像ト赤沈速度トノ間ニハ略々平行關係ガ認メラレタ。(第10表)

第10表 「ツ」反應陰性者ノ赤沈速度ト「レ」像

赤沈速度 「レ」像	正 常 1—15mm	輕度亢進 16—30mm	中等度亢進 31—40mm	強度亢進 41mm以上	亢 進 計	總 計
活 動 性						
疑 活 動 性						
要 注 意	20 (66.7%)	8		2	10 (33.3%)	30(37.5%) (100%)
亞 要 注 意	9 (75%)	2		1	3 (25%)	12(16%) (100%)
健 康 肺	32 (84.3%)	6			6 (15.7%)	38(47.5%) (100%)
計	61 (76%)	16		3	19 (24%)	80(100%) (100%)

數字下ノ(%)ハ各群ノ赤沈値ノ正常ト亢進者ノ割合

數字ノ右方ノ(%)ハ「ツ」反應陰性者全員ニ對スル各群ノ割合

2. 「ツ」反應陰性者、陽性者及陽轉者ノ赤沈速度比較

第11表ニ示スガ如ク、赤沈亢進者ハ「ツ」反應陽性者ニ最モ多ク(52.5%)「ツ」反應陰性者(24%)ト陽轉者(28.6%)トノ間ニハ大差ガ認メラレナカツタ。「ツ」反應陰性者ハ別トシテ「ツ」反應陽轉者ニ比シ「ツ」反應陽性者ニ於テ赤沈亢進者ノ高率ニ現レタノハ輕度亢進者ガ多クツタカラデアル。赤沈速度ノ強度亢進ハ「ツ」反應陽性者(20%)及ビ陽轉者(21.4%)ニ多ク兩者間ニ著差ガナイ。當然ノコトナガラ陰性者ニハ極メテ少カツタ(4%)。

第11表 「ツ」反應陰性者、陽性者及陽轉者ノ赤沈比較

「ツ」反應	赤沈速度	正 常	輕度亢進	中等度亢進	強度亢進	亢進計	總 計
		1—15mm	16—30mm	31—40mm	41mm以上		
陰 性 者		61(76%)	16(20%)		3(4%)	19(24%)	80(100%)
陽 性 者		19(47.5%)	9(22.5%)	4(10%)	8(20%)	21(52.5%)	40(100%)
陽 轉 者		10(71.4%)	1(7.2%)		3(21.4%)	4(28.4%)	14(100%)

3. 「ツ」反應陰性者、陽性者及陽轉者ノ「レ」像比較

「ツ」反應陰性者、陽性者及陽轉者ノ「レ」像ヲ比較シテ見ルト第12表ノ如クデアル。活動性「レ」像(疑活動性ヲ含ム)ハ「ツ」反應陽轉者ニ最モ多ク(35.7%)、次位ハ陽性者デ(27.5%)。「ツ」反應陰性者ニハ活動性「レ」像ハ認メラレナカツタ。健康肺「レ」像ハ「ツ」反應陰性者及陽性者ニハ夫々略ソノ半數ニ認メラレタガ、陽轉者ニハ少カツタ(28.6%)。

「ツ」反應陰性者ニモ結核性「レ」像ヲ認メルコトハ諸家ノ報告スル所デアアルガ、本實驗ニ於テモ稍々高率デアアルガ37%ノ要注意「レ」像ヲ發見シタ。亞要注意ハ必ズシモ結核性トハ斷言出來ヌモノモアルノデハ除クコトニシタ。要注意ノ37%ハ間接撮影ニヨツタモノデアアルカラ、四ツ切直接撮影ヲ行ツタナラバ、何%カニ於テ亞要注意或ハ健康肺ガ發見サル、モノナルベク、從ツテコノ百分率ヨリハ低率トナルコトト思フ。

第12表 「ツ」反應陰性者、陽性者及陽轉者ノ「レ」像比較

「ツ」反應	「レ」像					
	活 動 性	疑活動性	要 注 意	亞要注意	健 肺 群	計
陰 性 者			30(37.5%)	12(15%)	38(47.5%)	80(100%)
	42(52.5%)					
陽 性 者	7(17.5%)	4(10%)	5(12.5%)	4(10%)	20(50%)	40(100%)
	11(27.5%)		9(22.5%)			
陽 轉 者	4(28.6%)	1(7.1%)	2(14.3%)	3(21.4%)	4(28.6%)	14(100%)
	5(35.7%)		5(35.7%)			

總 括

検査人員144名中40名(27.7%)ハ「ツ」反應陽性デアリ。「ツ」反應陰性者94名(104名中10名ノ非檢者ヲ除ク)中14名(14.9%)ハ2ヶ月後陽轉シタ。検査成績ヲ「ツ」反應陽性者、陽轉者

及陰性者ニ分ケテ見ルト次ノ様デアル。

A. 「ツ」反應陽性者ノ検査成績

- 1) 「ツ」反應陽性者 40 名中赤沈正常者ハ 47.5% デアリ、亢進者ハ 52.5% ノ多キヲ占メ、而モ強度亢進ハ 20% ニ達シテキタ。
- 2) 「ツ」反應陽性者 40 名中活動性 7 名 (17.5%)、疑活動性 4 名 (10%)、要注意 5 名 (12.5%)、亞要注意 4 名 (10%) デ、健康肺群ハ 20 名 (50%) ニ過ギナカッタ。發見セル結核患者ハ總テ無自覺性デアツタ。
- 3) 「ツ」反應陽性者ノ活動性竝ニ疑活動性群ノ「レ」像ヲ見ルト 11 名中肺門浸潤(肺門淋巴腺結核ヲ含ム) 7 名、晩期型肺結核 2 名(空洞形成 1 名、滲出性 1 名)、早期浸潤 1 名、初期變化群 1 名デアル。此ノ 11 名中 1 名ハ通學生デアツタガ他ノ 10 名ハ寄宿舎ニ於テ 4 室ニ分居シテ相互ニ感染源ヲナシテキタノデアル。即チ 6 名(内 2 名喀痰結核菌陽性)ハ第 1 號室ニ肺門硬變 1 名健康者 1 名ト起居ヲ共ニシテキタ。此ノ 7 名ノ者ハ同室感染デアリ、此 1 名ノ健康者モ早晚感染ノ運命ヲモツテキタノデアル、殊ニコノ 1 名ノ健康者ハ「ツ」反應陰性デアツタノデ二重ノ危險ニ曝サレテキタノデアルガ本検査ニヨリ、コノ室ハ他ノ結核發生室ト同様嚴重消毒サレ、且ツ之等結核患者ハ隔離サレタノデ先ヅ感染ノ危險ハ免レタノデアル。

殘ル 4 名中 2 名(内 1 名喀痰結核菌陽性)ハ第 2 號室ニ健康者 6 名ト同室デアツタ。健康者 6 名中 3 名ハ「ツ」反應陰性デアツタノデアルガ、内 2 名ハ 2 ヶ月後果シテ陽轉シ、同時ニ發病シタノデアツタ。而シテ本検査後消毒隔離ヲ行ツタノデ今後觀察ヲ要スル所デアアルガ殘ル 4 名ノ健康者ハ危ク感染發病ノ危險ヲ危ル、ヲ得タノデアル。

殘ル 2 名(喀痰結核菌陰性)ハ 1 名宛々第 3 號室及第 4 號室ニ 2 名及 4 名ノ健康者ト同室デアツタガ之モ上述ノ處置ヲ採ツタ。斯クシテ活動性竝ニ疑活動性「レ」像者ハ入院治療或ハ隔離ヲ行ヒ學校内ヨリ感染源ヲ除クニ努メタ。喀痰培養ハ現在行ヒツ、アリ、當時ハ行ハナカッタノデアアルガ活動性竝ニ疑活動性「レ」像者 11 名中 3 名ニ於テ喀痰塗抹標本ニ結核菌ヲ證明シタ。尙現在實施中ナル喀痰竝ニ含嗽液ノ培養ニヨリ發見サルベキ感染源ノ絶滅ヲ謀リ、一方ニ於テハ本人ノ早期診斷、發病豫防、豫後ノ見透シ、早期治療ヲ行ヒタイト思ツテキル。

B. 「ツ」反應陽轉者ノ検査成績

- 1) 「ツ」反應陰性者 94 名中約 2 ヶ月後ニ於テ 14 名 (14.9%) ガ陽轉シ、内 8 名ハ最強陽轉ヲ示シタ。
- 2) 「ツ」反應陽轉者ノ「レ」像ハ活動性 4 名、疑活動性 1 名、要注意 2 名亞要注意 3 名、健康肺 4 名デアツタ。「ツ」反應陽轉者「レ」像ニ病變ヲ發來セル者ニ就イテ見ルト總テ肺門浸潤、肺門浸潤→肋膜炎ノ形デアル。之ハ肺結核ノ發病、初期「レ」像乃至ハツノ進展ノ狀ヲ究明スル上ニ於テ重要ナル役割ヲ演ズルモノト思フ。「レ」病變者ハ總テ無自覺性デアツタ。
- 3) 「ツ」反應最強陽轉者 8 名中活動性 4 名、疑活動性 1 名、要注意 2 名、亞要注意 1 名デア

ツタ。而シテ活動性竝ニ疑活動性ハ「ツ」反應最強陽轉者ニノミ發見サレ。他ノ比較的弱度陽轉者ニハ見出サレナカツタ。即チ活動性竝ニ疑活動性ハ「ツ」反應陽轉ニ際シテハ最強度陽轉ヲ示スコトガ認メラレタ。然シ逆ハ必ズシモ成立タズ。「ツ」反應最強陽轉必ズシモ活動性竝ニ疑活動性「レ」像ヲ發現スルトハ限ラナイ。

4. 「ツ」反應陽轉ノ強サト赤沈速度トノ間ニハ一定ノ關係ハ見出サレナイ。即チ「ツ」反應ガ強度ニ陽轉シタカラトテ赤沈速度ガ亢進スルトハ限ラナイ。活動性病變ガアツテ始メテ亢進スルコトガ認メラレタ。

5. 赤沈速度ト「レ」像トノ間ニハ平行關係ガ認メラレタ。

C. 「ツ」反應陰性者ノ検査成績竝ニ之ト陽性者、陽轉者ノソレトノ比較

1) 「ツ」反應陰性者ノ「レ」像ト赤沈速度トノ間ニハ略々平行關係ガ認メラレタ。

2) 赤沈速度亢進者ハ「ツ」反應陽性者ニ最モ多ク(52.5%)。次位「ツ」反應陽轉者デアルガ(28.6%)。之等ノハ被檢者ノ病竈ノ程度及ビ病竈所度者ノ多寡ニヨツテ變化スベキコトハ言フ迄モナイ。「ツ」反應陰性者ニ於テハ赤沈亢進者ハ最モ少イ(24%)。

3) 活動性乃至疑活動性「レ」像ハ「ツ」反應陽轉者ニ最モ多ク(35.7%)。次位ハ「ツ」反應陽性者デ(27.5%)。「ツ」反應陰性者ニハ認メラレナカツタ。「ツ」反應陰性者ニハ要注意「レ」像ヲ37.5%認メタ。

要 約

某盲啞學校生徒集團檢診ノ結果、豫想外ニ多數ノ肺結核患者ヲ發見シタ。之ハ殆ド無自覺性デアツタ。之等ノ者ハ學内感染或ハ同室内感染ニヨツテ發生セルモノト思ハレル。殊ニ寄宿舎内ニ居住スル者ニ同室内感染ト思ハル、無自覺性結核患者ガ相當多數認メラレタ。或ル室ノ如キハ8名ノ同室者中7名迄ガ侵サレテキタ。之等ノ事實ハ學内感染ニセヨ、同室内感染ニセヨ、コノ種學校生徒ハ正常ノ人間トハソノ生活態度ヲ異ニシ、又疾病ニ對スル認識ハ不足デアリ、且ツハ一度疾病ノ侵ス所トナルモ容易ニ症狀ヲ訴ヘナイコトニモ原因サル、モノデアリ、斯クテハ疾病ノ早期診斷早期治療ノ時機ヲ徒ラニ遅ラセ病勢ノ進行ヲ招來シ、一方ニ於テハ他人ニ對シ、濃厚感染ノ機會ヲ與フル原因ヲナスモノト考ヘラレル。依ツテ此ノ種學校生徒ニ於テハ特ニ定期集團検査ヲ短時日ノ間隔ヲ以テ嚴重ニ行ヒ、此ノ種學校生徒ニ對シ不完全ヲ免レ得ザル問診ノ缺陷ヲ補ハネバナラヌコト、思フ。

「ツ」反應陽性者ノ結核性病的「レ」像ハ初期變化群ヨリ肺癆ニ至ル全結核型ヲ含メンデキタ。「ツ」反應陰性者中2ヶ月後「ツ」反應陽轉セル者ハ14.9%デアリ、此ノ内「レ」像ニ結核性病變ヲ示セル者ハ殆ド總テ肺門浸潤ノ形デアツタ。之ハ肺結核ノ發生、初期「レ」像將又肺結核ノ進展ヲ論ズル上ニ於テ肝要ナル事實デアラウ。

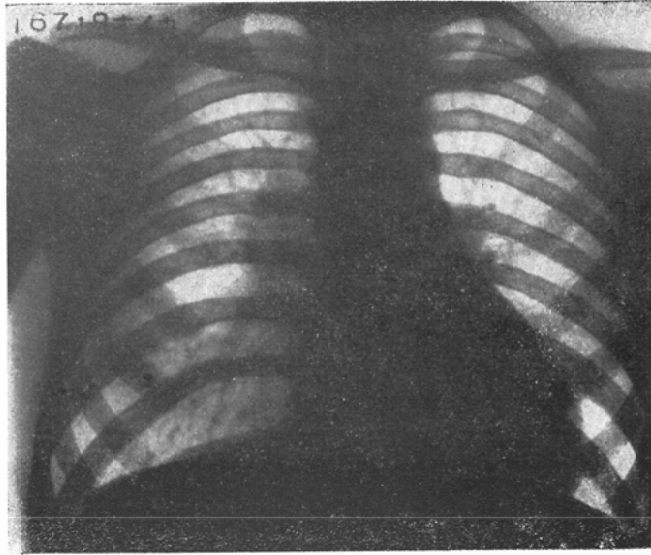
「ツ」反應陽性者、陽轉者及ビ陰性者各群ノ「レ」像ト赤沈速度トノ間ニハ略々平行關係ガ認メラレタガ、僅少例ニ於テ「レ」寫眞上異常ナキ者ニ赤沈速度ノ促進セル者アルヲ見タ。之ハ周知

足澤論文附圖(一)

「ツ」反應陽轉者ノ活動性「レ」像(直接撮影ト間接撮影トノ比較)

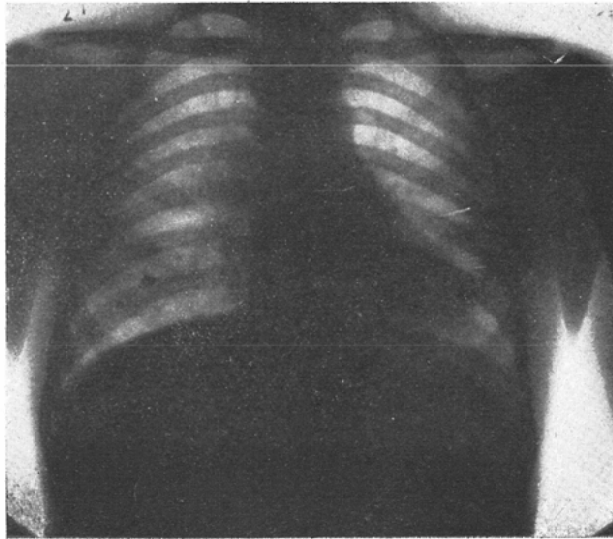
第一例 山○萬○

四ツ切縮寫

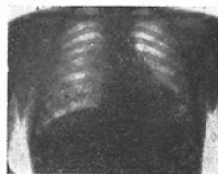


右側肺門浸潤

間接撮影伸寫



間接撮影

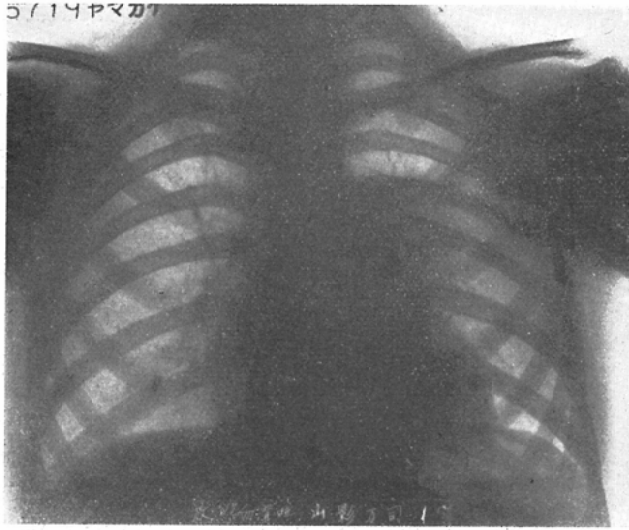


直接ト間接トノ間ニ殆ド差ヲ認メナイ

足澤論文附圖(二)

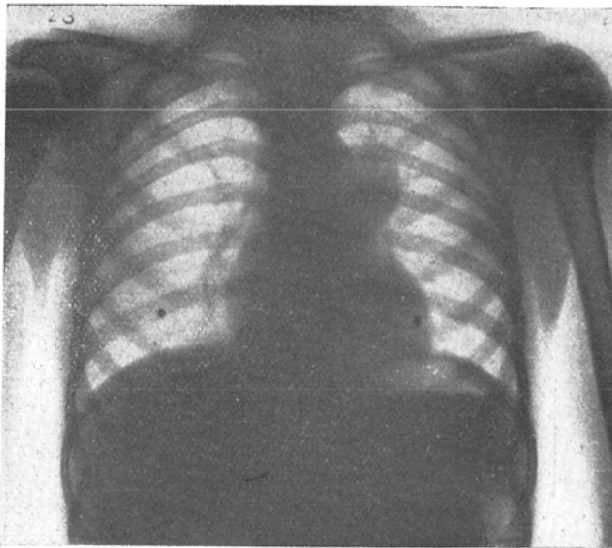
第二例 及 ○ 間 ○

四ツ切縮寫

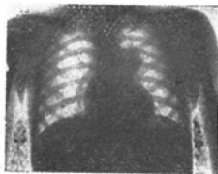


左側肺門浸潤

間接伸寫



間接撮影

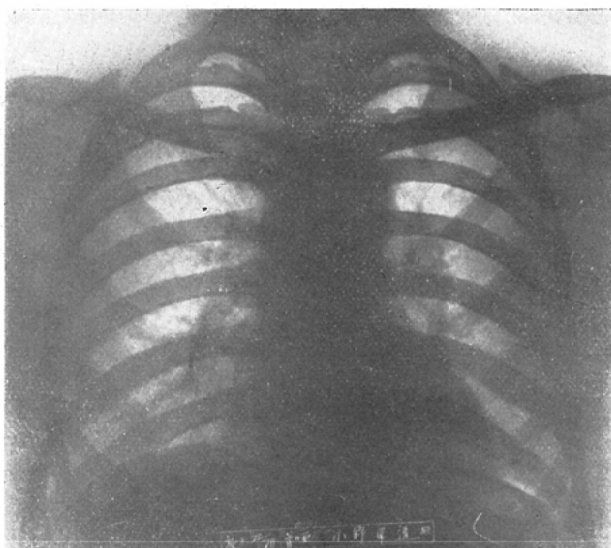


間接ニ於テハ肺門腺周圍ノ浸潤像ハ消滅シテキル

足澤論文附圖(三)

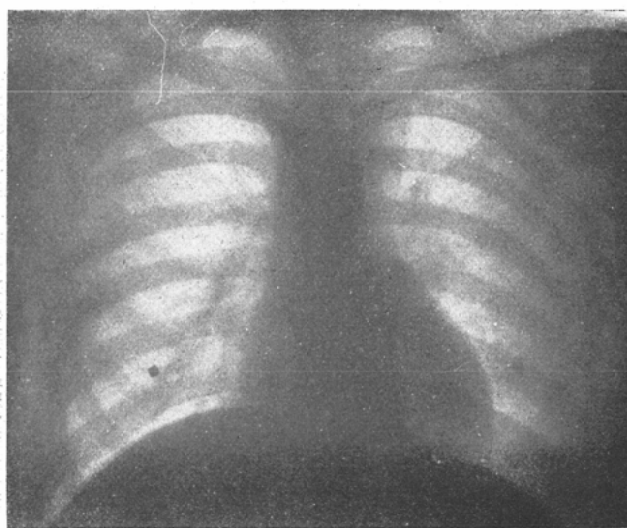
第三例 小○常○

四ツ切縮寫

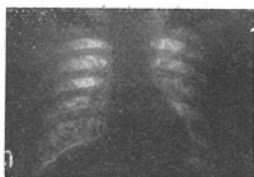


左側肺門浸潤

間接撮影伸寫



間接撮影

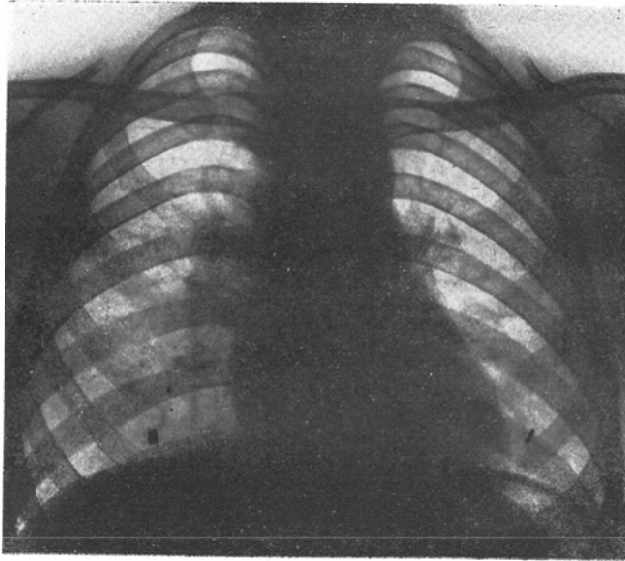


間接ニ於テハ肺門「レ」像不鮮明

足澤論文附圖(四)

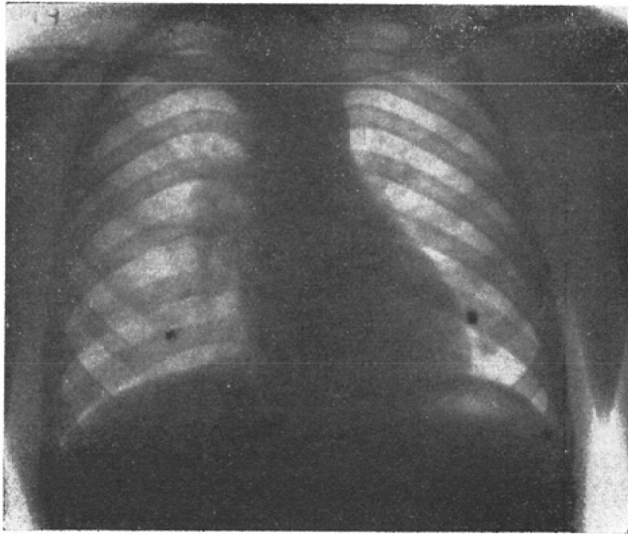
第四例 遠〇仁〇〇

四ツ切縮寫

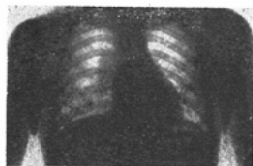


右側肺門浸潤

間接撮影伸寫



間接撮影



間接ト直接トノ間ニ大差ナケレド間接ニ於テハ肺門腺周圍ノ浸潤竈ハ透過サレテ腫脹セル肺門腺ノ「コントロール」ハ鮮銳トナル

ノ如ク「レ」像ニ現レ得ザル部位ニ病竈ノ存在ヲ意味スル事象ナル故、疾病ノ早期探索上或ハ生徒ノ處置取扱上ヨリ觀テ、赤沈速度ノ實施ガ必要トナツテ來ル所以デアル。從ツテソノ對象如何ニヨリ赤沈速度モ他検査ト平行實施シ度キモノデアリ、要ハソノ運用如何ニアルコト、思フ。

「ツ」反應ガ陽轉スル場合、活動性(疑活動性ヲ含ム)「レ」像ヲ示ス者ハスベテソノ「ツ」反應ハ最強度陽轉ヲナス事實ヲ認メタ。然シソノ逆ハ必ずシモ認メラズ、非活動性「レ」像ヲ示ス者ニモ最強度陽轉ヲ示ス者ガアツタ。

「ツ」反應陽轉ノ程度ト赤沈速度トノ間ニハ一定ノ關係ハ認メラレナカツタ。